

# はつらつ

No.97

野田地区今泉

こし かわ ゆい  
越川 唯さん (17歳)

## 琴を弾いて、琴に惹かれて

私が今、一番熱中しているのは琴です。昨年、高校の友達とおしゃべり中に「琴を弾いてみたいんだよね」と話題が出て、私が小学生のときに琴教室に通っていたことから話が盛り上がり、今年春、その友達と一緒に生涯学習センターの琴講座に申し込みました。琴を弾くのは4年ぶりでしたが、体が覚えていて、次第に指が動くようになってきました。

琴を弾いていて、今まで弾けなかったところを間違えずに弾けたときは、達成感があってとっても楽しいです。この間は、講座活動の集大成として「のさか文化祭」での発表がありました。始まる前は、ワクワクしていましたが、実際にステージに立ってみると、ちょうど私の前に音響用のマイクが置かれていてビックリ。観客も多くてとても緊張しましたが、弾ききることができました。小学生のときに発表したのを思い出して懐かしかったです。

来年は受験生になるので、楽しい琴もいったんお休み。今のうちにたくさん弾いて、受験勉強に集中したいです。



## みんなみて!!みて!! アートギャラリー



もうすぐ楽しみなクリスマス。ツリーは全部自分で作ったの。お花の飾りが上手にできたよ。雪を貼るのが難しかったな。

新井 磨 矢ちゃん  
榎海保育園



「12年後の私」がテーマ。楽しい釣りを想像して作成。竿と糸の芯に針金を使ったので紙粘土の巻き付けが大変でした。

平和小 6年  
及川 聖也さん



6年間お世話になった校舎を「ありがとう」の思いを込めて描きました。色塗りもそうですが、スケッチが大変でした。

共興小 6年  
鵜澤 迅さん



とっても仲良い姉妹。  
これからも元気で大きくなーれ!

両親|| 慎太郎さん・咲葵さん(八日市場)

井上 帆夏ちゃん 3歳  
咲佳ちゃん 1歳

アイドル登場  
No.200



ごはんいっぱい食べて  
大きくなあれ☆

両親|| 大樹さん・由美さん(高)

山崎 あこちゃん 1歳  
りこちゃん 1歳

アイドル 募集中!  
お子さんの写真に、氏名、生年月日、両親氏名、住所、電話番号、30字程度のコメントを添えて郵送。持参またはメール(写真データサイズは1メガバイト以上)で応募ください。

## クラブ・サークル紹介

私たちは、常に笑顔を絶やさず取り組める「エンジョイサッカー」をモットーにしたチームです。しばらくサッカーから遠ざかっていた後輩や初心者に声をかけ、10月に新しく立ち上げました。チーム名は「**ゼロ**からのスタート」を意味しています。

メンバーは女性を含む24人で、そのうち初心者は5人。普段はフットサル中心の練習を行っています。メンバーに負担をかけないよう活動費用を抑えているのもウリです。今後、女性フットサルチーム設立も目標に、楽しいサッカーを続けていきます。

運動したい人いませんか？経験・未経験問わず大歓迎です。一緒に楽しみましょう。（代表・浅野）



### Profile プロフィール

- ①設立 平成26年
- ②年齢層 20歳代～30歳代
- ③活動日時 毎週水曜日  
19時30分～21時30分
- ④活動場所 生涯学習センター
- ⑤問い合わせ 代表・浅野  
☎090-1059-8543

大会参加証を手に笑顔をみせる木内さん



## おめでとうございます 仁川アジアパラ大会 4位入賞

残しました。

韓国・仁川で開かれた仁川アジアパラ競技大会「車いすダンススポーツ」競技に本市東小笹在住・木内千鶴さんが出場し、見事4位入賞を果たしました。同大会は10月18～24日にかけて開かれ、今大会から正式種目に採用された同競技は、20、21日に実施。木内さんは、車いすの男女がペアを組む「デュオスタイル」で、パートナーの保立静さん（茨城県神栖市）と、スタンダード5種目（ワルツ、タンゴなど）とラテン5種目（サンバ、チャチャチャなど）の2部門に出場。ラテンで4位入賞を果たすとともに、スタンダードでも決勝に進出し6位の成績を残しました。

「車いすダンススポーツ」

## 木内千鶴さん（東小笹）

韓国・仁川で開かれた仁川アジアパラ競技大会「車いすダンススポーツ」競技に本市東小笹在住・木内千鶴さんが出場し、見事4位入賞を果たしました。



9月の匠瑳市ボランティアフェスタでダンスを披露した木内さん（右）とパートナーの保立静さん

### 《木内さん略歴》

東小笹在住。20年前に交通事故で車いす生活となったが、4年前に健常者と楽しむレクダンスに出会い、3年前に競技ダンスに転向。現在は、週に2回、茨城県神栖市で練習に励む。普段は、市内のボランティア団体「フレンドリー」代表として、福祉出前講座などの活動を行っている。

木内さんは、帰国後、「メダルまであと一歩だった」と悔しさをにじませましたが、アジアの国々と接する中で、日本の障がい者スポーツは競技者への支援や一般の理解の面で発展途上である点を実感したとのこと。今後の競技活動に向けて「課題も見つけやすい経験になった。技術向上を目指したい」と述べ、「車いすダンスを広めるために力を注ぎたい。これをきっかけに皆さんに活動を知ってもらえれば」と抱負を語りました。